

広畑タイムズ

家庭と学校をつなぐ二小便り

令和元年8月29日発行

第291号

大野第二小学校

校長 千葉英一



ああ、かんちがい…

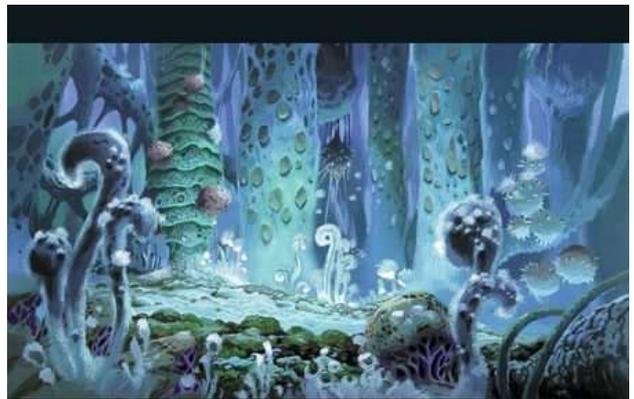
畑を覆う雑草。野菜のための土の栄養が吸い取られてしまうと、一生懸命抜いても抜いても、また生えてくる。今年は校庭の雑草もそんな感じでした。なんとかよい方法はないものかと、本を読んだり、ネットで調べたり、農業短大に行ってみたり…。

そこで目から鱗のお話を聞くことができました。雑草の代表格といえばスギナです。春先に伸びてきて、取っても根っこが残ってしまい、次から次へと生えてくる。しまいには除草剤をまいても、また別の場所にあざ笑うかのように伸びてくる。うちの自宅の庭もそうでしたし、中学校の花壇もそうだったなあと思い出していました。ところが、学校の畑や校庭にはスギナが生えてこないのです。また、私の自宅の庭にもここ数年スギナが生えてこないのです。これはいったいどういうことかと調べてみたら、スギナは酸性土壌に生えやすい植物であること。そして春が終わると枯れ始め、そのときに自らが作り出すカルシウムで、酸性土壌を中和していること。だから、スギナが生えるということはひどい酸性土壌なのであり、次の年にはいろいろな草が生えてくるようになること、土壌が中和されるとスギナは生えてこなくなること、学校の校庭にはたくさんの石灰がまかれているので、土壌がアルカリに傾いていること、そこに生えるイネ科の雑草は、二酸化炭素をたくさん吸収してくれるものであること、などなど。

園芸植物や野菜は、人間が自分たちに都合よく改変しているため、雑草のような土壌改良の力はなく、ひ弱なんだということです。スタジオジブリの「風の谷のナウシカ」に登場する腐界の植物たちは地中の毒を吸い上げて成長し、やがて枯れてきれいな土にしてくれる。腐界の大きな昆虫たちは腐界を守っている、つまり地球環境の保全のために働いている。スギナの話を知っていて「ナウシカ」の「腐界」を思い出しました。

人間は自らを霊長類と呼び、地球で最高の知者であることを誇りとしています。実は自分の生活する環境を悪化させているだけの愚か者なのではないかと思いました。

自分だけが賢いとか、自分だけが苦労していると思ってしまうと、見えてこなくなることが多いのだなあと思えて考えさせられた夏の1日でした。



あたりまえの日常生活を積み重ねる



夏休み明け三日たちました。私は先輩から、「長期休業明けや学級開きのあとの三日間は黄金の三日間という。ここでの指導が、その後の数ヶ月間の流れを決めるとも大切なものになる。」と教わりました。経験の浅い先生方になかなか伝わらない、言葉にすることも難しい、しかし教師が伝えていくべき指導技術の一つだと思います。最近では、「私はこう思うのだから、こうやります。なぜそれがいけないのですか？」というご意見が多くなってきています。その行き着く先に、この夏にも発生していた身勝手な事件などがあるように思えてなりません。社会の規範意識が薄れ、こうあるべきだと皆が認めるスタイルがなくなりつつある今、家庭と協力して学校場で伝えていかなくてはならないことは、ますます多くなっていると思います。それらが自分勝手な独りよがりのものにならないように、保護者や地域の方々にオープンにしていくことも、大切なことだと考えています。

2学期も子どもたちにはあたりまえのことを一生懸命取り組ませたいと思います。「互いの命を守るのはあたりまえ」「教室で学習に励むのはあたりまえ」「行事で自分たちの思いを伝えるために頑張るのはあたりまえ」その先の未来に、社会を支える立派な人になることを願いながら。

明日は避難訓練です

明日の午後に、震度6弱の地震が発生したという想定で避難訓練を行います。まずは自分の命を守ることが大切ですが、子どもたちにでもできる他の人を助ける方法があります。それはこれくらいと高をくくっている大人たちに「逃げよう」と真剣に言うことです。あの震災の時は大変な難を逃れたというお年寄りがたくさんいました。何よりも大切な命を守るために学びます。

